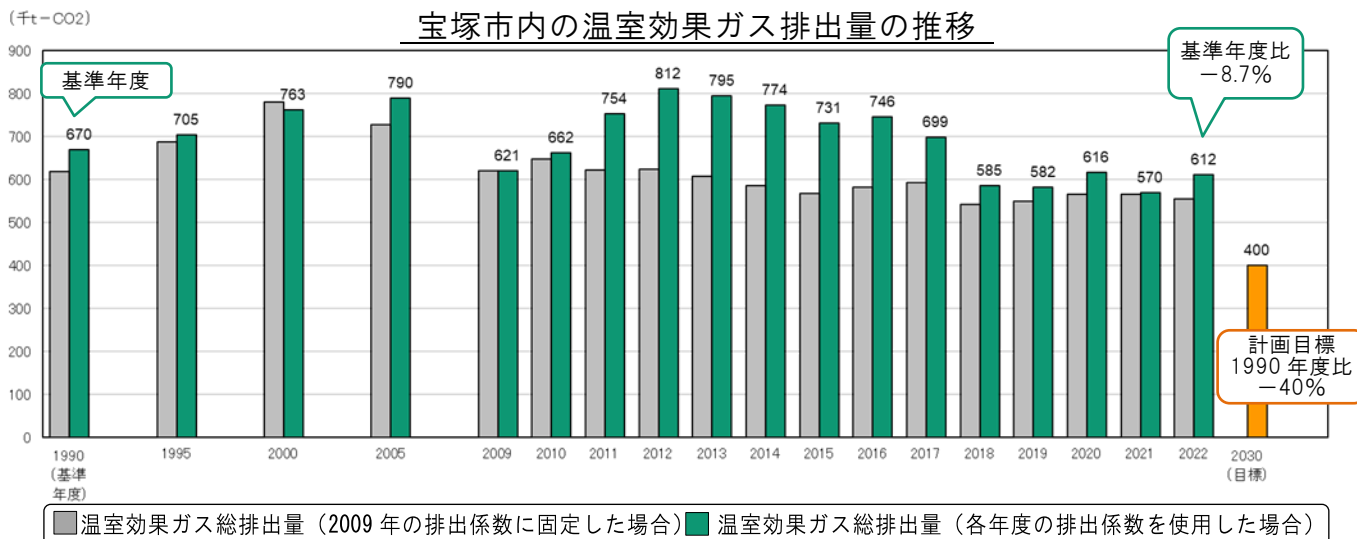


宝塚市内の温室効果ガス排出量について（2022年度速報値※）

※温室効果ガスの排出量を迅速に把握し、実効性の高い施策を実施するため、可能な限り最新の数値を用いて2022年度実績を速報値として公表しています。なお、各種統計データが公表されていない部分は暫定的に2021年度データを用いて算定しています。そのため、確定した統計データに基づいて算定した場合に差異が生じる可能性があります。

1 温室効果ガス排出量の推移

2022年度の温室効果ガス排出量:61万2千トン
(基準年度比-8.7%)



電力の排出係数とは

電力の排出係数とは、各電力事業者が一定の電力を作り出す際にどれだけ二酸化炭素(CO2)を排出したかを表す指標です。

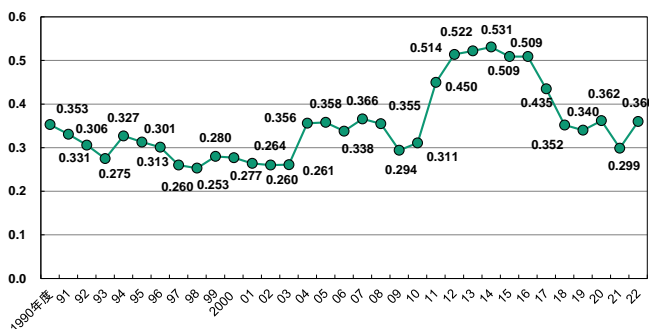
火力発電は化石燃料を燃やして発電するため、火力発電の割合が高くなると排出係数は高くなります。

私たちの取り組みとしては排出係数に関わらず、普段の省エネ行動により、電気使用量を削減していくことが大切です。

2022年度は、原子力発電所の稼働率の低下により、他社からの受電電力量が多くなったため、排出係数が増加したと考えられます。

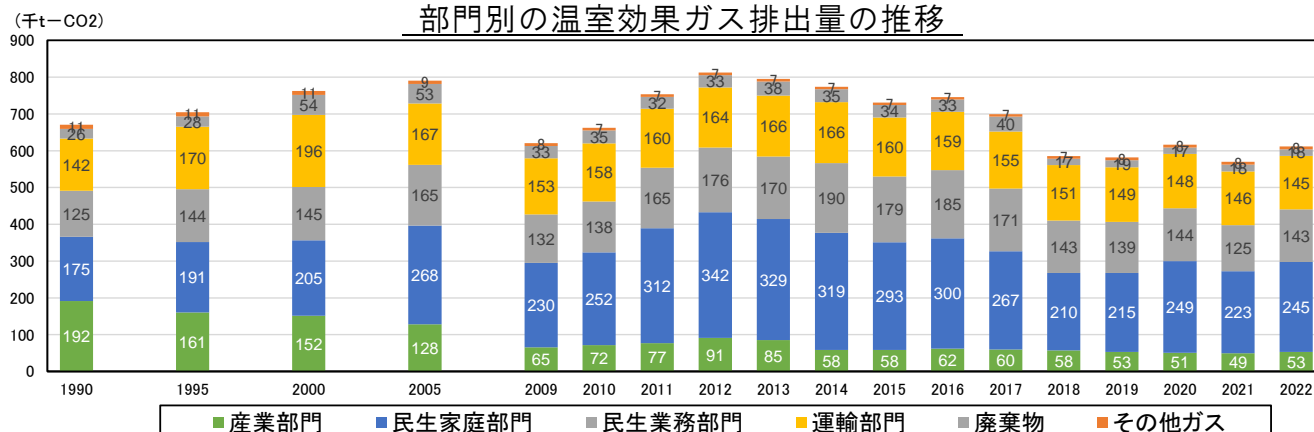


電力の排出係数 (kg-CO2/kWh)

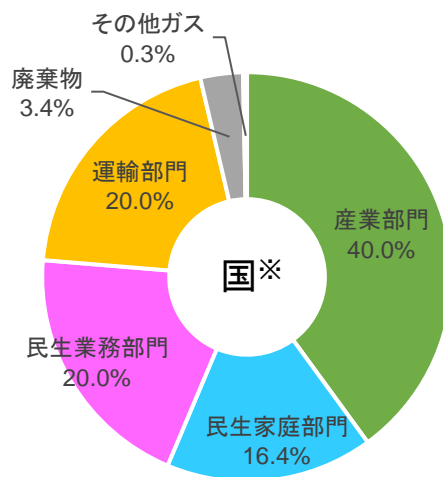
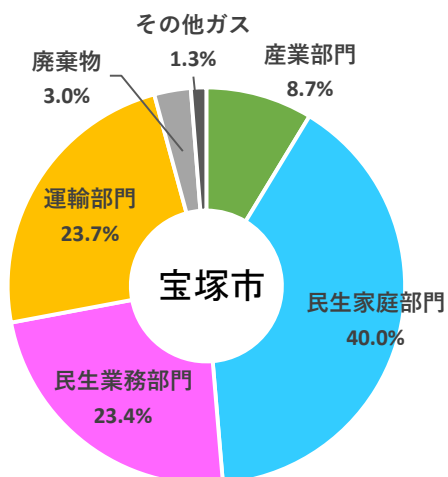


2 部門別の排出量

部門別の温室効果ガス排出量の推移



温室効果ガス排出量の構成割合（2022年度）

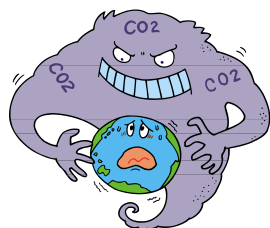


※国は2022年度の温室効果ガス排出量(暫定データ)をもとに算出

宝塚市の2022年度（速報値）の温室効果ガスの構成割合をみると、民生家庭部門の割合が全体の約40%を占めており、国と比べて高いのが特徴です。

部門別の排出量では基準年度（1990年度）と比べると、民生家庭部門で40.0%増加、民生業務部門で14.8%増加、運輸部門で2.2%増加となっています。

一方、産業部門では基準年から72.3%減少、その他ガスで31.5%減少、廃棄物で30.0%減少、しています。



部門別の温室効果ガス排出量

部門	1990年度 (基準年度)	2022年度	
		排出量	基準年度比
産業部門	192	53	72.3%減少
民生家庭部門	175	245	40.0%増加
民生業務部門	125	143	14.8%増加
運輸部門	142	145	2.2%増加
廃棄物	26	18	30.0%減少
その他ガス	11	8	31.5%減少

※四捨五入等の関係で別表と整合しない場合があります。

主要4部門排出量の増減状況（1990年度を100とした場合の推移）

